

潮

特集

視界ゼロの 日本政治

牧原出/山口那津男/M・グリーン/松田喬和/
門倉貴史/山川敦司

創刊50周年特別シリーズ企画 ニッポンの選択
「無縁社会」の衝撃

昭和36年11月22日
第3種郵便物認可
平成22年11月1日発行
毎月1回1日発行 通巻621号
<http://www.usio.co.jp>

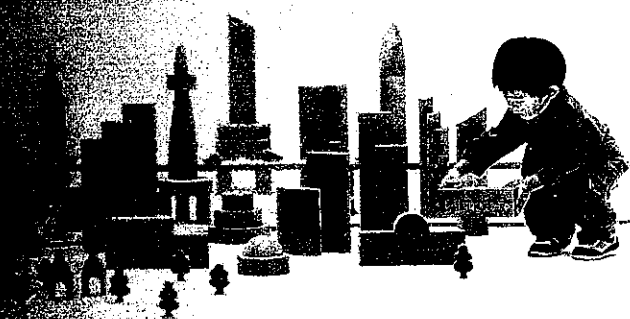
11

【おしお】November, 2010

50th
ushio



を、チカラに。



実現できることは、必ず人が実現できる。
実現できないものは、100年先を見つめています。

100年をつくる会社
鹿島

01801-11

SHIPPANSHA
Japan 2010



4910018011102
00590



遊佐雅美には夏の海がよく似合う。彼女はライフセーバーとして、今年も神奈川県藤沢市の片瀬江ノ島海岸東浜でひと夏を過ごした。ここは、ピーク時に一日に一〇万人近い人出がある日本有数のビーチだ。

遊佐たちは人命を守るといふ重大な責務を担っている。それにもかかわらず、ライフセーバーの実態がひろく理解されているわけではない。「プールの監視員」程度の認識、ひどいケースだと「口うるさく注意する連中」と煙たがられてしまう。だが、遊佐は屈託なく白い歯をみせた。「私たちは医者さんじゃないし、神様でもありません。だけど、生命を誰よりも大事にしているつもりです。事故を未然に防ぎ、万が一の場合には全力を尽くして救助に向かい

ます。溺れた人には、心肺蘇生のためにできる限りのことを施します。そのために日頃から身体を鍛え、救命の技術を学んでいるんです」

遊佐はキャプテンとして一五人のライフセーバーを束ね、指揮をする。彼女の双肩にかかるものは重く、忙しさも半端ではない。

ウォッチタワーでは、双眼鏡片手にライフセーバーが監視している。ビーチに等間隔で五つのサーフボードが係留されているのも、緊急時に備えてのことだ。また、ライフセーバーたちは海と浜辺で常時パトロールを行っている。ユニフォームは黄色と赤のシンボルカラーが配されており、遠目にもよく目立つ。

「かわいいワンちゃんですなええ！」
遊佐は、海水浴客が連れてきたミ

ニチュアダックスフントに駆け寄り頭をなでた。彼女の気立てのよさがわかるのか、犬はちぎれんばかりに尾を振る。犬は首輪を外されていた。

「でもね、ビーチじゃ必ずリードをつけてもらう決まりなんです。ワンちゃんも自由に動き回りたいだろうけど、他のお客さんもいらつしやいますし、どうかご協力ください」

嫌味のない口ぶりに飼主ももうなずく。遊佐は再び歩き出した。ゴミがあれば見逃さず拾いあげる。

「海難者を助けるだけが私たちの仕事じゃありません。浜の約束事を守ってもらったり、きれいな海のため

に自分のできることをやっています」
遊佐はトランシーバーで仲間たちと情報交換を絶やさない。
「小学生のグループが、浜でボール

「人命救助」にやり直しは効かない。

遊びをしているわ。この子たちが泳ぎ始めたら、注意して見てあげて」「ブイが浮かんでいるところの潮目しほめが変わったみたい」

ライフセーバーの勤務時間は朝八時から夕方五時までだが、確認事項や救命道具のメンテナンスなど時間外の仕事も多い。万が一の場合は夜を徹して捜索さうさくを続けることもある。その日も、遊佐が詰所つみじょを出る頃にはすっかり暗くなっていた。

ビーチフラッグス 全日本一七連覇

遊佐には、ライフセービング競技の世界的なアスリートという横顔がある。彼女は二〇〇八年の世界選手権ビーチフラッグス競技で、八年ぶり四度目の女王となった。今年はずでに全日本種目別選手権を制し、十月二十三、二十四日に開催の全日本選手権に一八連覇をかけて挑む。

「アスリートとしての私しか知らない人には、どうも「怖い」なんて思われているみたいですね」

遊佐は肩をすくめた。しかし勝負の場にいる彼女を覗みていると、この世評もあながち否定はできない。

ビーチフラッグス競技は、砂浜で二〇メートル離れたチューブに背を向け、うつ伏せの姿勢をとる。ホイッスルの音で猛然もうぜんと立ち上がり反転し、チューブを奪うばい合う。立ち上がりから向きを変えるまで一秒、そこからの猛ダッシュが二秒ほどと、わずか三秒、四秒の間に勝負が決まる。

「短距離走とイス取りゲームを組み合わせたような競技」ともいわれるが、あたらすといえども遠からずというところか。ただビーチフラッグスからは「ゲーム」の娯楽性ごらくせいが排除排じょされている。フライング一回で失格となるのは、「人命救助」にやり直しが効かないことを考えれば合点がてんが

いくし、それゆえに選手の緊張度はいやがうえにも高まっていく。

これぞ、一瞬の勝負——遊佐が鬼気迫る表情になるのも当然のことだ。「大会で勝つことの意義は否定できません。優勝すれば私も素直にうれしい。ただ、私はアスリートである前にライフセーバーであることを忘れないようにしています。ビーチフラッグスの女王になるためにトレーニングをしているのではないことを、ぜひわかっていただきたいんです」

ライフセービングの使命は「水辺の人命救助」に始まり、ぶれることなくそこへ帰結きけつしていく。この過程が必要とされ、泳力をはじめとする体力や救命のための知識を養い、サーフィン、チューブといった救助ツールを使いこなせるよう精進しょうじんする。「ビーチフラッグスで勝利できたということは、私に判断力や瞬発力、

ダッシュ能力があったという証明になります。そこを評価されるのが、何よりも名誉だし励みになるんです」

ライフセービングでは「救急の連鎖れんさ」を重視する。泳ぎの速い者は率先して水溺者すいじやくしゃのもとへ急ぐ。水溺者が浜へ戻されれば、今度は砂浜での走力はかりに長けた者が受け継ぐ——すべては生命を守るための連携だ。

「もし浜辺に倒れている人がいたら、私は誰よりも速く駆けつけます」

遊佐の表情は凛れんと輝ひいていた。

遊佐がライフセーバーを志しよしたきっかけは、東京健康科学専門学校での「救急救命」の講義だった。

「講師は日本ライフセービング協会の小峯力理このみち理事長でした」

小峯は遊佐たちに問うた。「君たちは、もし眼の前で愛する人が溺ひれていたとき、助けてあげるこ



とができるだろうか？」

遊佐は高校時代に短距離走で鳴らし、いずれスポーツインストラクターになるつもりだった。体力や運動神経には自信がある。だが眼の水難者を助けることは――。

「小峯さんにいわれて、すごいショックでした。改めて自分の無力さを知りました。このときまでライフセービングの「ラ」の字も知らなかったんですが、その場でライフセーバーを目指す決心がついたんです」

遊佐は苦手だった泳ぎを克服し資格も取った。一九九二年には全日本選手権ビーチフラッグスに初出場して四位、翌年から連覇が始まる。

「ライフセービングと出会って、私という人間が変わりました」

ライフセービングを始めて二年目、彼女はデパートでショッピングを楽しんでいた。

「そのとき、階段の踊り場でおばあ

さんで急に倒れたんです。たちまち黒山の人だかりとなりましたが、誰一人として助けようとしませんでした」

遊佐は人々をかきわけ、すぐに人工呼吸とマッサージを施した。

「実は……すごい人見知りで、初対面の方だと話しかけることもできなかった私が、とっさにあの行動に出られたなんて。自分のやったことに自分でびっくりしちゃいました」

聴力を失って
新たな境地を知る

遊佐はこの九月で三十七歳になったが、小柄で筋肉質な身体と潑刺とした表情、俊敏な動作、小麦色の肌もあいまって印象はずつと若々しい。それでいて、遊佐に妙な気取りは皆無だ。飾らず、たおやかで実直。彼女の自然体の受け答えと態度は潮風のように心地よい。

「よく、ノホホンと生きてるとか、

イフセーバーなら、必ず生死のかかった修羅場を体験している。だからこそ、ライフセーバーは異口同音に「生命の尊厳」を口にするのだ。

「生きていることへの感謝を忘れてしまった私――ライフセーバーとして失格でした。だけど、もう一回、きちんと自分の生命と向き合ってやり直そうと決心しました」

その想いと決意は競技に端的に表れた。肉体を追い込む厳しいトレーニングを重ねながらも、精神的には鍛錬を愉しむ新たな境地を知ることができたことが大きい。

「勝てなくてもいい。やるだけのことをやって、自分のベストを尽くそうと思いました。そうしたら少し楽になりました」

結果として、前述のとおり遊佐は今年の種目別選手権でも王者となった。秋にはエジプトで開催される世界選手権の出場が決まっている。

「海に来た人、全員が笑顔で帰ってもらいたい。何人助けたかを自慢するんじゃないくて、一人も助けていない、つまり事故を未然に防いだライフセーバーになりたいんです」

「文中敬称略」

遊佐は近年、NPO法人「ビーチ文化振興協会」の業務にも力を注いでいる。ライフセービングで得た体験や生命の大切さを各地で講演し、小学生には水辺の安全教育を指導する。彼女は、己にいいきかせるように、しかし爽やかにいった。

「海に来た人、全員が笑顔で帰ってもらいたい。何人助けたかを自慢するんじゃないくて、一人も助けていない、つまり事故を未然に防いだライフセーバーになりたいんです」

「文中敬称略」

遊佐は近年、NPO法人「ビーチ文化振興協会」の業務にも力を注いでいる。ライフセービングで得た体験や生命の大切さを各地で講演し、小学生には水辺の安全教育を指導する。彼女は、己にいいきかせるように、しかし爽やかにいった。

「海に来た人、全員が笑顔で帰ってもらいたい。何人助けたかを自慢するんじゃないくて、一人も助けていない、つまり事故を未然に防いだライフセーバーになりたいんです」

「文中敬称略」

遊佐は近年、NPO法人「ビーチ文化振興協会」の業務にも力を注いでいる。ライフセービングで得た体験や生命の大切さを各地で講演し、小学生には水辺の安全教育を指導する。彼女は、己にいいきかせるように、しかし爽やかにいった。

「海に来た人、全員が笑顔で帰ってもらいたい。何人助けたかを自慢するんじゃないくて、一人も助けていない、つまり事故を未然に防いだライフセーバーになりたいんです」

「文中敬称略」

遊佐は近年、NPO法人「ビーチ文化振興協会」の業務にも力を注いでいる。ライフセービングで得た体験や生命の大切さを各地で講演し、小学生には水辺の安全教育を指導する。彼女は、己にいいきかせるように、しかし爽やかにいった。

「海に来た人、全員が笑顔で帰ってもらいたい。何人助けたかを自慢するんじゃないくて、一人も助けていない、つまり事故を未然に防いだライフセーバーになりたいんです」

「文中敬称略」

遊佐は近年、NPO法人「ビーチ文化振興協会」の業務にも力を注いでいる。ライフセービングで得た体験や生命の大切さを各地で講演し、小学生には水辺の安全教育を指導する。彼女は、己にいいきかせるように、しかし爽やかにいった。

「海に来た人、全員が笑顔で帰ってもらいたい。何人助けたかを自慢するんじゃないくて、一人も助けていない、つまり事故を未然に防いだライフセーバーになりたいんです」

「文中敬称略」

遊佐は近年、NPO法人「ビーチ文化振興協会」の業務にも力を注いでいる。ライフセービングで得た体験や生命の大切さを各地で講演し、小学生には水辺の安全教育を指導する。彼女は、己にいいきかせるように、しかし爽やかにいった。

「海に来た人、全員が笑顔で帰ってもらいたい。何人助けたかを自慢するんじゃないくて、一人も助けていない、つまり事故を未然に防いだライフセーバーになりたいんです」

「文中敬称略」

遊佐は近年、NPO法人「ビーチ文化振興協会」の業務にも力を注いでいる。ライフセービングで得た体験や生命の大切さを各地で講演し、小学生には水辺の安全教育を指導する。彼女は、己にいいきかせるように、しかし爽やかにいった。

「海に来た人、全員が笑顔で帰ってもらいたい。何人助けたかを自慢するんじゃないくて、一人も助けていない、つまり事故を未然に防いだライフセーバーになりたいんです」

「文中敬称略」

遊佐は近年、NPO法人「ビーチ文化振興協会」の業務にも力を注いでいる。ライフセービングで得た体験や生命の大切さを各地で講演し、小学生には水辺の安全教育を指導する。彼女は、己にいいきかせるように、しかし爽やかにいった。

「文中敬称略」

「海に来た人、全員が笑顔で帰ってもらいたい。何人助けたかを自慢するんじゃないくて、一人も助けていない、つまり事故を未然に防いだライフセーバーになりたいんです」

「文中敬称略」

遊佐は近年、NPO法人「ビーチ文化振興協会」の業務にも力を注いでいる。ライフセービングで得た体験や生命の大切さを各地で講演し、小学生には水辺の安全教育を指導する。彼女は、己にいいきかせるように、しかし爽やかにいった。

「海に来た人、全員が笑顔で帰ってもらいたい。何人助けたかを自慢するんじゃないくて、一人も助けていない、つまり事故を未然に防いだライフセーバーになりたいんです」

「文中敬称略」

遊佐は近年、NPO法人「ビーチ文化振興協会」の業務にも力を注いでいる。ライフセービングで得た体験や生命の大切さを各地で講演し、小学生には水辺の安全教育を指導する。彼女は、己にいいきかせるように、しかし爽やかにいった。

「海に来た人、全員が笑顔で帰ってもらいたい。何人助けたかを自慢するんじゃないくて、一人も助けていない、つまり事故を未然に防いだライフセーバーになりたいんです」

「文中敬称略」

遊佐は近年、NPO法人「ビーチ文化振興協会」の業務にも力を注いでいる。ライフセービングで得た体験や生命の大切さを各地で講演し、小学生には水辺の安全教育を指導する。彼女は、己にいいきかせるように、しかし爽やかにいった。

「海に来た人、全員が笑顔で帰ってもらいたい。何人助けたかを自慢するんじゃないくて、一人も助けていない、つまり事故を未然に防いだライフセーバーになりたいんです」

「文中敬称略」

遊佐は近年、NPO法人「ビーチ文化振興協会」の業務にも力を注いでいる。ライフセービングで得た体験や生命の大切さを各地で講演し、小学生には水辺の安全教育を指導する。彼女は、己にいいきかせるように、しかし爽やかにいった。

「海に来た人、全員が笑顔で帰ってもらいたい。何人助けたかを自慢するんじゃないくて、一人も助けていない、つまり事故を未然に防いだライフセーバーになりたいんです」

「文中敬称略」

遊佐は近年、NPO法人「ビーチ文化振興協会」の業務にも力を注いでいる。ライフセービングで得た体験や生命の大切さを各地で講演し、小学生には水辺の安全教育を指導する。彼女は、己にいいきかせるように、しかし爽やかにいった。

「海に来た人、全員が笑顔で帰ってもらいたい。何人助けたかを自慢するんじゃないくて、一人も助けていない、つまり事故を未然に防いだライフセーバーになりたいんです」

「文中敬称略」

遊佐は近年、NPO法人「ビーチ文化振興協会」の業務にも力を注いでいる。ライフセービングで得た体験や生命の大切さを各地で講演し、小学生には水辺の安全教育を指導する。彼女は、己にいいきかせるように、しかし爽やかにいった。

「海に来た人、全員が笑顔で帰ってもらいたい。何人助けたかを自慢するんじゃないくて、一人も助けていない、つまり事故を未然に防いだライフセーバーになりたいんです」

「文中敬称略」

遊佐は近年、NPO法人「ビーチ文化振興協会」の業務にも力を注いでいる。ライフセービングで得た体験や生命の大切さを各地で講演し、小学生には水辺の安全教育を指導する。彼女は、己にいいきかせるように、しかし爽やかにいった。

「海に来た人、全員が笑顔で帰ってもらいたい。何人助けたかを自慢するんじゃないくて、一人も助けていない、つまり事故を未然に防いだライフセーバーになりたいんです」

「文中敬称略」

遊佐は近年、NPO法人「ビーチ文化振興協会」の業務にも力を注いでいる。ライフセービングで得た体験や生命の大切さを各地で講演し、小学生には水辺の安全教育を指導する。彼女は、己にいいきかせるように、しかし爽やかにいった。

「文中敬称略」